

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	甲銀行当座預金	普通預金	未払金
仕入	買掛金	車両	償却債権取立益
備品減価償却累計額	貸倒損失	売上	備品
受取商品券	仮払消費税	受取手形	買掛金
売掛金	減価償却費	乙信用金庫当座預金	貸倒引当金
仮受消費税	固定資産売却損	租税公課	固定資産売却益

- 得意先山崎海産が倒産し、同社に対する前期に発生した受取手形¥300,000 および売掛金¥200,000 が回収不能であることが判明した。なお、当社では前期の決算において設定した貸倒引当金の残高が¥400,000 ある。
- 販売用の中古車（本体価格¥1,200,000）を購入し、代金は8%の消費税込みの金額を月末に支払うことにしている。なお、消費税の会計処理は税抜方式を採用している。
- 甲銀行と乙信用金庫に当座預金口座を開設し、それぞれ現金で甲銀行には¥500,000、乙信用金庫には¥300,000を預け入れた。ただし、口座を管理するために勘定科目を分けて設定している。
- 商品¥35,000を販売し、代金のうち¥20,000は共通商品券で受け取り、残額は現金で受け取った。
- 不用となった備品（取得原価¥2,000,000、期首減価償却累計額¥1,187,500、耐用年数8年、残存価額をゼロとする定額法により償却）を当期の8月24日に売却し、代金¥750,000は当社の普通預金口座に入金されている。また、当社の決算日は毎年11月末日である。

第2問 (10点)

山形商事株式会社（決算は年1回3月末）における次の取引にもとづいて、繰越利益剰余金勘定の空欄①から⑤にあてはまる適切な語句または金額を答案用紙に記入しなさい。

- 4月1日 前期から繰り越されてきた繰越利益剰余金の金額は¥5,600,000である。
- 6月25日 株主総会の決議により利益剰余金を財源とする配当¥600,000を行った。また、会社法の定めにより利益準備金の積立て¥60,000を行った。
- 3月31日 決算日を迎え、当期純利益¥2,650,000を計上した。

繰越利益剰余金	
6/25 未払配当金 (①)	4/1 前期繰越 (④)
〃 利益準備金 ()	3/31 (⑤) ()
3/31 (②) (③)	
()	()

第 3 問 (30 点)

次の(1)残高試算表と(2)諸取引にもとづいて、答案用紙の平成 31 年 4 月 30 日の残高試算表を作成しなさい。

(1) 平成 31 年 4 月 26 日時点の残高試算表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
2,562,000	現 金	
2,168,000	当 座 預 金	
2,500,000	売 掛 金	
3,000,000	電 子 記 録 債 権	
680,000	繰 越 商 品	
1,200,000	備 品	
4,000,000	土 地	
	買 掛 金	3,600,000
	電 子 記 録 債 務	2,400,000
	資 本 金	5,000,000
	繰 越 利 益 剰 余 金	1,677,100
	売 上	9,875,000
3,685,200	仕 入	
1,985,200	給 料	
88,000	水 道 光 熱 費	
240,000	支 払 家 賃	
365,200	租 税 公 課	
78,500	通 信 費	
22,552,100		22,552,100

(2) 平成 31 年 4 月 27 から 30 日までの諸取引

27 日 掛 売 上：津久見商店 ¥360,000

給料支払い：支給総額 ¥562,000（所得税の源泉徴収税額 ¥18,000 差引後の金額）を当座預金口座から引落し。

家賃の支払い：富山不動産 ¥80,000。当座預金口座から引落し。

経費支払い：携帯電話料金 ¥28,200。当座預金口座からの引落し。

28 日 掛 売 上：人吉商店 ¥120,000

電子記録債務：指宿商店に対する買掛金 ¥150,000 について、同店の承諾後、電子記録債務の発生。

経費支払い：水道光熱費 ¥23,000。当座預金口座から引落し。

29 日 掛 仕 入：指宿商店 ¥500,000

電子記録債権：飯野商店に対する売掛金 ¥300,000 について、同店の承諾後、電子記録債権の発生。

電子記録債務：支払い ¥1,000,000。当座預金口座からの引落し。

30 日 電子記録債権：回収 ¥1,200,000。当座預金口座に入金。

経費支払い：収入印紙 ¥32,000。現金支払い。

第 4 問 (10 点)

次の国府商店における各取引の伝票記入について、空欄(ア)～(オ)にあてはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。なお、使用しない伝票の解答欄には「記入なし」と答えること。また、商品売買取引の処理は3分法によること。

- (1) 得意先阿蘇商事に対して商品¥200,000を販売し、代金はクレジットカードにより支払われていたが、本日信販会社より当座預金勘定に入金された。なお、販売代金の手数料1%は販売時に計上している。

入金伝票	
科目	金額
(ア)	()

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
()	(イ)	(ウ)	()

- (2) 従業員が出張から帰社し、旅費交通費の残額¥7,300を現金で受け取った。なお、出張にあたって、従業員に旅費の概算額¥36,000を渡しており、仮払金で処理している。

入金伝票	
科目	金額
(エ)	7,300

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	(オ)	()	()

第 5 問 (30 点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの 1 年間である。

(1) 決算整理前残高試算表
平成 31 年 3 月 31 日

借方	勘定科目	貸方
889,200	現金	
	当座預金	97,500
1,250,000	受取手形	
650,000	売掛金	
88,000	繰越商品	
1,200,000	備品	
4,500,000	土地	
	支払手形	980,000
	買掛金	650,000
	借入金	500,000
	貸倒引当金	60,000
	備品減価償却累計額	460,000
	資本金	1,500,000
	繰越利益剰余金	623,700
	売上	12,800,000
	受取地代	756,000
4,985,000	仕入	
3,120,000	給料	
845,000	広告宣伝費	
494,000	支払家賃	
150,000	貸倒損失	
256,000	水道光熱費	
18,427,200		18,427,200

(2) 決算整理事項等

- 現金の実際有高は¥880,200であった。帳簿残高との差額のうち¥8,800は水道光熱費の支払いを計上していなかったことが判明した。残額については不明であるため適切な処理をする。
- 当座預金勘定の貸方残高全額を借入金勘定に振替える。当社は取引銀行との間で当座借越契約¥1,000,000を締結している。
- 期末商品棚卸高は¥45,000である。
- 備品はすべて平成 28 年 5 月に取得したもので、残存価額をゼロとした定額法により償却している。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して 3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 貸倒損失のうち、¥30,000は前期に発生した債権が貸し倒れたものである。
- 保有している土地を有効活用するため月極駐車場として貸付けている。そのうち¥60,000は翌月分であるため前受け計上する。
- 営業用店舗のテナント料が当座預金口座から引き落とされている。なお、契約では翌月分を前月の 25 日に支払う契約となっているため、1か月分を前払い計上する。
- 給料の未払い額¥120,000がある。
- 当期の所得に対する法人税等の額¥960,000を計上する。